特集 「絶対評価」を考える

表現の能力「話すこと」の評価

1学期の評価を振り返って

日臺滋之
（東京学芸大学附属世田谷中学校）

はじめに

本稿では，中学3年生を対象に，1学期に取り組んだ「話すこと」の活動とその評価の実践例を提示し，評価のあり方を振り返ってみたい。

1. Show & Tell の要領で自分のことについて話す活動

（1）ねらい

この活動は自分の得意分野や興味のあることについてShow & Tell の要領でクラスメートの前でスピーチを行う活動である。生徒は自分の興味あることだけに話す内容もあり，伝えたいという気持ちにもなりやすい。中学3年生を対象に1学期の「話すこと」の重点活動として位置付け，授業の最初の10分間をこの活動に当てた。

（2）指導方法

① スピーチ・トピックについてヒントを提示。

始めにこの活動でどのようなトピックでスピーチをしたらよいか生徒にヒントを提示した。（資料）

Let's Talk about You.

List of Possible Topics for Presentation.

1 hobbies
2 special interests
3 friends
4 places you have visited in Japan or another country
5 your favorite place to go in Tokyo
6 your favorite movie
7 your family
8 what do you want to be when you finish school?
9 music
10 famous Japanese people

・Why do you like this thing / these things?
・What inspired you to become interested in this thing / these things?
・Do you think that you will still be interested in this when you are 20 years old? 40 years old?

② 発表用スクリプトの書き方と presentation の仕方を説明。（資料）

1. 発表する前に書いてみましょう。（50語以上。100～150語程度いったらスゴイ！毎時間，男女1名。出席番号順。4月30日（火）から発表！
難しく書かないこと！それには，習った語を使いましょう。新出単語は多くとも2語以内。習った文法を使いましょう。不安な人は先生まで。）
2. 発表する時は，スクリプトを持ちません。見ません。メモもなしです。小物，写真を用意しましょう。きっと興味を持って聞いてくれますよ。
3. 発表が終わったら，このスクリプトは提出します。（提出物扱いです）

Title：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（以下，罫線の入った用紙）

③ 授業の最初の10分間の流れ

・決められた順番で男女各1名がスピーチ。
・スピーチ後にクラスメートから質問の時間。
・スピーチについて自発的に質問した生徒には contribution card を渡す。このカードは聞く生徒の積極的な参加の雰囲気を授業に作り出したい願いから始めた。（このカードをノートにはっておいてもらい，学期末のノート点検では関心・意欲の表れとして評価した。）
・教師から手短にコメント。

（3）評価項目

評価項目として，「何が言いたいのかわかる」，「正しい英語の発音」，「声の大きさ，明瞭さ」，eye contact，「間の取り方」，「言いたいことを効果的に伝えているか＜品物の準備＞」の各項目を設定した。

（4）観点別評価の方法

評価項目について，十分満足できる発表であればA，おおむね満足できる発表であればB，努力を要すると判断される発表であればCというように大きく3段階評価基準を設けた。実際にはAとBとの間に中間点のB^+，BとCとの中間点のB^-を設けると評価しやすい。

学期末に点数化し，たとえば，A（5点），B^+（4点），B（3点），B^-（2点），C（1点）とし，その学期で取り組んだ他の「話すこと」の活動と一緒に定期テストの得点に加えて評価した。

2. 音読テストの評価について

（1）ねらい

一斉授業の中で，個々に発音指導し，評価するのは難しいだけに，学期の重点活動としての音読テストの意義は大きい。また，英語の音読を苦手とする生徒の早期発見とその手だてにも大いに役立つ。

（2）指導方法

教科書の進度，授業時数，音読テストに費やす時間を考えると頻繁に実施するのは難しいが，せめて学期に1度は音読テストを実施したいと思う。手順は次の通りである。

- 事前に音読テストの範囲を決め，1週間前にはテスト日を生徒に連絡。生徒には家庭でも音読テストに向けてテープをよく聞くように指示。
- テスト当日は，生徒は決められた順番で別室に入室し，音読テストを受ける。別室を確保できない場合は廊下で行うこともできる。
- 別室に入室した生徒は何枚かのカードから1枚カードを引く。カードには音読テストの範囲のあるセクションを読むように指示を書いておく。カードはテスト範囲のすべてのセクションを網羅するように作成しておく。生徒にもそう伝えておく。
- 生徒は教科書を開き，引いたカードの指示したセクションを読む。音読後，教師は生徒の今後の学習に役立つ暖かいコメントを手短にする。40人のクラスでも2時間を予定しておくとよい。

（3）評価項目

評価の項目として，『中学校学習指導要領解説—外国語編—』の「言語材料，イ音声」を参考に，以下の5項目を設定した。

「発音」については，母音や子音について日本語の音の代用をして発音していないか。また，規則動詞の過去形の語尾や，複数形の語尾を正しく発音しているか。こういった項目については，個々の生徒の評価用紙に達成できなかった具体的な音についてメモをとっておくと，次回の音読テストで何が達成されたのか知ることができる。

「語と語の連結による音変化」については，連続した音変化に注意して音読しているか。

「強勢」については，語のアクセントや文の中で強く発音するところに注意して音読しているか。

「イントネーション」については，上昇調，下降調に注意して音読しているか。

「区切り」については，意味のまとまりに注意して音読しているか。

あらかじめ，生徒の名前と評価項目とを印刷した評価用紙を用意しておく。

（4）観点別評価の方法

音読の評価も，「1．Show & Tellの要領で自分のことについて話す活動」の「（4）観点別評価の方法」の場合と同様に，A（5点），B^+（4点），B（3点），B^-（2点），C（1点）と点数化して評価しておくと学期末の評価のとき何かと便利である。

ところで，音読テストの結果を観点別評価項目のどの項目にしたらよいかという問題がある。「理解の能力」の「読むこと」または「表現の能力」の「話すこと」のどちらかの評価に加えておくことでよいかと思う。

おわりに

評価による波及効果は大きいのではないかと思う。発表を評価に加えることで発表そのものに対する生徒の取り組み方も違ってくるし，音読テストを評価に加えることで，家庭での音読練習や授業での音読も活性化してくるように思われる。授業での指導と評価とを関連付けることにより一層よい結果を生み出すようにしたいものである。